

日本博総合推進会議（第1回）

議 事 次 第

日時：平成30年12月26日（水）
16時20分～17時00分
場所：官邸4階大会議室

1 開 会

2 議 事

- (1) 日本博について
- (2) 意見交換

3 総理発言

4 閉 会

《配布資料》

- 資料1 日本博総合推進会議の開催について
- 資料2 日本博総合推進会議運営要領（案）
- 資料3 「日本博」について
- 資料4 「日本博」の検討・実施体制について（案）
- 資料5 「日本博」の総合テーマ等（案）
- 資料6－1 「日本博」の枠組み・イメージ①
- 資料6－2 「日本博」の枠組み・イメージ②
- 資料7 「日本博」の主な企画案の概要
- 資料8 「日本博」の主なプログラムイメージ
- 資料9 「日本博」関連の主なスケジュール（案）

日本博総合推進会議の開催について

〔平成 30 年 12 月 25 日〕
内閣総理大臣決裁

1. 趣旨

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成や訪日外国人観光客の拡大等も見据えつつ、日本の美を体現する我が国の文化芸術の振興及びその多様かつ普遍的な魅力を発信する日本博の具体化及び開催準備等に係る審議を行うため、日本博総合推進会議（以下「推進会議」という。）を開催する。

2. 構成

推進会議の構成は、別紙のとおりとする。ただし、議長は、必要があると認めるときは、関係者に出席を求めることができる。

3. その他

- (1) 推進会議の庶務は、関係行政機関の協力を得て、内閣官房において処理する。
- (2) 前各項に定めるもののほか、推進会議の運営に関する事項その他必要な事項は、議長が定める。

(別紙)

議長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議長代理	菅 義偉	内閣官房長官
議長補佐	野上 浩太郎	内閣官房副長官
構成員	櫻田 義孝	東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣
	平井 卓也	内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略）
	河野 太郎	外務大臣
	柴山 昌彦	文部科学大臣
	石井 啓一	国土交通大臣
	小林 達雄	國學院大學文学部名誉教授
	小松 大秀	公益財団法人永青文庫館長
	島谷 弘幸	九州国立博物館長
	高階 秀爾	公益財団法人大原美術館館長

平成 30 年 12 月 26 日

日本博総合推進会議運営要領（案）

日本博総合推進会議（以下「総合推進会議」という。）の運営については、この運営要領の定めるところによるものとする。

1. 総合推進会議は非公開とし、会議終了後、議事要旨及び総合推進会議で配布された資料を速やかに公表する。ただし、議長が特に必要と認めるときは、議事要旨又は配布資料の全部又は一部を公表しないものとするができる。
2. 総合推進会議終了後、原則として、総合推進会議の事務局が記者ブリーフを行い、議事内容を説明するものとする。

1. 経緯

- 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」(主催:安倍総理、座長:津川雅彦氏)において、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討等を実施。
- 2020年の「日本博」については、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本の全国各地で実施することとされ、第6回の同懇談会(2018年6月22日開催)において、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示。

2. 関連スケジュール

2015年: 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」発足

2016年: 「日本仏像展」(於:イタリア)を開催

2018年: 「ジャポニスム2018」(於:フランス)を開催

2019年: 「ジャポニズム2019(仮称)」(於:米国等)を開催

2020年: 「日本博」(於:日本)を開催

(※ 同年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催)

日本博総合推進会議

議長：内閣総理大臣 議長代理：内閣官房長官
 議長補佐：内閣官房副長官（参）
 構成員：オリパラ大臣、クールジャパン担当大臣、外務大臣、文科大臣、国交大臣、
 小林達雄氏、小松大秀氏、島谷弘幸氏、高階秀爾氏

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議（仮称）

各省庁間の連携・調整

議長：内閣官房副長官（参）、議長代理：内閣官房副長官補（内政）
 議長補佐（全体総括担当）：文化庁長官、議長補佐（オリパラとの連携担当）：オリパラ事務局長

文化庁
 全体統括

オリパラ事務局 知財事務局 まちひとしごと事務局 アイヌ政策室 宮内庁 警察庁 総務省 外務省 国税庁 文科省 厚労省 農水省 経産省 観光庁 環境省

文化庁「日本博」企画委員会

有識者、地方自治体代表、産業界代表、日本博事務局事務総長

適宜助言等

企画の立案・実施への助言

国立文化施設

（独）日本芸術文化振興会
日本博事務局
 企画の立案・実施
 事務総長：理事長

（独）国立文化財機構

（独）国立美術館

（独）国立科学博物館

国立アイヌ民族博物館

国立近現代建築資料館

1 総合テーマ：「日本人と自然」

2 基本コンセプト

「日本の美」は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を表現してきた。

日本は、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、人間が自然にたいして共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしている。

「日本博」では、総合テーマ「日本人と自然」の下に、「美術・文化財」「舞台芸術」「メディア芸術」「生活文化・文芸・音楽」「食文化・自然」「デザイン・ファッション」「共生社会・多文化共生」「被災地復興」などの各分野にわたり、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来を創生する。

この文化芸術の祭典が、人々の交流を促して感動を呼び起こし、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、平和の祈りへとつながることを希求する。

3 開催時期等

2020年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開

4 実施にあたってのポイント

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を全国で展開。

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じて体系的に展開。

（文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクト）



- オリパラ前、期間中、オリパラ後のインバウンド拡充
- 訪日外国人の「地方への誘客」の促進
- 国家ブランディングの確立

〔共通コンセプト〕

縄文から現代

日本人と自然

美術・文化財

舞台芸術

メディア芸術

生活文化・文芸・音楽

食文化・自然

デザイン・ファッション

共生社会・多文化共生

被災地復興

〔主な分野〕

主催・共催型

「総合大型プロジェクト」

「日本博」の中核となる総合大型プロジェクト（国、文化施設、民間団体、事務局等が共同で企画・実施）

（イメージ）

- ▶ 縄文から近現代の美術
- ▶ 伝統芸能・現代舞台芸術
- ▶ メディア芸術
- ▶ 生活文化・文芸・音楽等の複合領域を一つの空間で演出するプロジェクト

「分野別大規模プロジェクト」

「日本博」のテーマ及びコンセプトを加味した大規模な展示・公演等のプロジェクト（全国的な活動を行う団体等が主催）

（イメージ）

- ▶ 地方自治体や文化関係団体等で一定期間実施するプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

公募助成型

「イノベーション型プロジェクト」

各地域や団体の特色ある企画を公募し事業費を一部助成

（イメージ）

- ① 地域の特色を生かして新たに企画・実施するプロジェクト
- ② 文化関係団体が実施する新規性・創造性が高いプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

参画型

各地域や団体の特色ある企画を公募し企画内容を認定

（イメージ）

- ① テーマ、コンセプトに沿う日本を代表するプロジェクト
- ② 「日本博」として国内外に発信するものとして相応しいプロジェクト

等

《美術・文化財》

企画（案）	概要
日本の美、日本人と自然をテーマとした美術品、国宝・重要文化財展示（仮）	○日本の美、日本人と自然を表現した縄文から近代までの代表的な美術品、国宝・重要文化財等の絵画、彫刻、工芸、書などを紹介。京都、九州、その他地域での実施も検討中。
「日本の美－工芸と自然－」（仮称）	○素材や技法に工夫を重ねつつ、伝えられてきた日本の工芸、現代を代表する作家から若手作家までの作品をデザイン性の高い空間で展示。訪日外国人向け体験等も企画。 ○石川県をはじめとした地方での実施も検討中。
日本の建物模型の展示、文化財の保存技術の体験（仮称） 文化財建造物の修理現場（仮称）	○日本の伝統建築から近現代建築までの模型展示や、修理・彩色などの日本の自然の素材を活用した伝統的な匠の技を体験する展覧会。 ○国宝・重要文化財の建物修理現場一斉公開を全国で実施。大工、屋根葺替、左官等の自然の素材を生かした技術や歴史的背景、生活様式を紹介。

《舞台芸術》

企画（案）	概要
「日本の伝統芸能まつり」（仮称）	○歌舞伎、能狂言、人形浄瑠璃文楽、日本舞踊、琉球舞踊等の公演を、各ジャンルの人間国宝などが一堂に会し短時間で行い、我が国の「自然」を表現する舞台（ショーケース・タイプ）。
Discoverシリーズ（歌舞伎・能・文楽等）（外国人のための体験公演）	○訪日外国人を対象に、多言語サイトの開設、多言語化した音声ガイド・字幕表示及びデジタルコンテンツによる解説で、日本の四季を題材にした歌舞伎、文楽、能楽、組踊などを公演。

《メディア芸術》

企画（案）	概要
「MANGA都市TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮」 （仮称）	○日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮に描かれたTOKYOの自然、歴史、風土、文化を江戸時代から現代まで紹介。2018年パリ開催の展覧会を再構築し、約90タイトルの貴重な原画類、映像、都市模型などにより構成。 展示によるTOKYO観光ガイドとしても楽しめる企画。

《生活文化・文芸・音楽》

企画（案）	概要
「詩を謡い、奏で、舞う」 （仮称）	○日本の四季折々の自然や風俗を表現している詩歌を選歌、作曲・作詞をした上で邦楽を演奏し、舞踊、朗読形式で上演。 第1部は「万葉集」「新古今和歌集」、第2部は近世の文豪（谷崎潤一郎、川端康成など）の作品を企画。

《食文化・自然》

企画（案）	概要
「国立公園展」 （仮称）	○四季折々に変化する国立公園の多様で豊かな日本の自然を絵画、標本資料、画像などにより科学的、文化芸術的な側面から紹介。 同時に博物館内で、全国の国立公園への誘客を図る。
「日本の食」 （仮称）	○日本の自然の恵みによる多彩な食材等を多角的に紹介するとともに、日本の食の過去・未来を考察する体験や、全国の地域食、日本の弁当文化体験などを提供。

《デザイン・ファッション》

企画（案）	概要
「日本のファッション、デザイン展」 （仮称）	○日本の戦後ファッションの歴史を辿る初めての大展覧会。21世紀になってからの最新の動向も紹介。日本のファッション・デザイナーが「自然との関わり」から着想を得た「創造性」や「革新性」を切り口とした展覧会等。

《共生社会・多文化共生》

企画（案）	概要
「ここから4－障害と共生を考える5日間」展（仮称）	○障害・感覚・年齢などをテーマとし、アートを通じて共生社会を考える機会となるよう、障害のある方たちが制作した魅力ある作品等を展示し、あらゆる人々にとって新たな意識、「生き方の創造」につなげていく作品を紹介。

《被災地復興》

企画（案）	概要
被災地における民俗芸能（仮称）	○全国各地の風土と生活の中で生まれた民俗芸能を各地で実施。被災地の民俗芸能の復興をアピール。

《総合型》

企画（案）	概要
アイヌ文化をテーマとした企画	○2020年4月にアイヌ文化復興のナショナルセンターとしてオープンする“民族共生象徴空間”をはじめ、北海道内各地において、“自然とともに生きるアイヌ文化”をテーマとした伝統芸能、食文化・生活文化などの体験型プログラムを開催。
総合大型プロジェクト（仮）	○一つの空間で国宝・重要文化財展示や、被災地も含めた全国の伝統芸能、衣食住の展示、体験型ワークショップ等が丸ごと楽しめる企画。

我が国を代表する縄文から近代の国宝・重要文化財を、訪日外国人向けに多言語で「日本人と自然」のテーマで集中展示。



国宝『新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器NO.5 (火焰型土器)』縄文時代



重文『遮光器土偶』縄文時代



国宝『埴輪 挂甲の武人』古墳時代



国宝『薬師如来像』平安時代



国宝『太刀 三条宗近 (名物三日月宗近)』平安時代

画像提供：独立行政法人国立文化財機構 蔵
『新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器』のみ新潟県十日町市博物館 蔵



重文 紙本墨画鳥獣人物戯画甲巻断簡 平安時代



国宝『秋冬山水図 雪舟』室町時代



国宝『檜図屏風 狩野永徳』安土桃山時代



重文『櫛鳥糸肩赤威胴丸』室町時代

特別展 「御即位30年記念 両陛下と文化交流 —日本美を伝える—」

日本美を守り伝える「紡ぐプロジェクト」—皇室の至宝・国宝プロジェクト—



(美術・文化財)

宮内庁三の丸尚蔵館が所管する皇室ゆかりの作品の中から、天皇皇后両陛下が外国御訪問の際にお持ちになって紹介された作品などを展示し、両陛下が担われた文化交流を紹介。

会場：東京国立博物館本館

会期：2019年3月5日（火）～4月29日（月・祝）



伝岩佐又兵衛「小栗判官絵巻」 (宮内庁三の丸尚蔵館 蔵)



「花鳥十二ヶ月図」酒井抱一筆 12幅 江戸時代・文政6年（1823）
(宮内庁三の丸尚蔵館 蔵)



赤縮緬地吉祥文様刺繍振袖
昭和10年（1935）



高村光雲「養蚕天女」
(宮内庁三の丸尚蔵館 蔵)

*文化庁、宮内庁、読売新聞社において、皇室ゆかりの優品や国宝・重要文化財などの日本の美を広く国内外へ、さらに未来へ紡ぐため、「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』—皇室の至宝・国宝プロジェクト—」を共同で進めていくことについて合意。

日本の工芸展 イメージ

(美術・文化財)

「自然へのまなざし(仮称)」
イメージ画像



石黒宗麿「彩瓷柿文壺」
(東京国立近代美術館工芸館 蔵)

「パッション 20☆20PASSIONS (仮称)」イメージ画像



鈴木長吉「十二の鷹」 3,6 (東京国立近代美術館工芸館 蔵)



飯田新七「雪中蒼鷹図」
(京都国立近代美術館 蔵)

「NATURE&ART! 素材・わざ・風土ー再びひらく、人為と自然 (仮称)」イメージ画像



富本憲吉「色絵金銀彩四弁花文八角飾箱」
(東京国立近代美術館工芸館 蔵)



松田権六「蒔絵螺鈿有職文飾箱」
(東京国立近代美術館工芸館 蔵)



堀柳女「けはい」
(東京国立近代美術館工芸館 蔵)



香川勝廣「菊花図花瓶」
(京都国立近代美術館 蔵)

「日本の美-工芸と自然-①（仮称）」イメージ

(美術・文化財)

素材や技法に工夫を重ねつつ、現在まで伝えられてきた日本の工芸、現代を代表する作家から中堅、若手作家までの作品を展示する、日本の美「工芸」のすばらしさを伝える展覧会をデザイン性の高い空間で企画。訪日外国人向けの工房体験や一流ホテルで作品を活用したアートフェア開催、食事を提供するなどの企画も実施。

人形



(もくしんとうそかみばり「しんげつ」)
林 駒夫 木芯桐塑紙貼「新月」

人形



(うみ) から (てんくう) へ
奥田小由女「海から天空へ」

陶芸



(たんおうゆうりぎんさいようもんはち)
中田一於 淡桜釉裏銀彩葉文鉢

陶芸



(はくじひねりめんとりつぽ)
前田昭博 白瓷捻面取壺

漆



(まきえらでんはちりょうぼこ「さいこう」)
室瀬和美 蒔絵螺鈿八稜箱「彩光」
(文化庁 蔵)

漆



(ありまのみこ)
伊藤裕司「有馬皇子」

染織



(つむぎおりきもの「いりひ」)
村上良子 紬織着物「入り日」

染織



(たびはる) か
中井貞次「旅遙か」

「日本の美-工芸と自然-②（仮称）」イメージ

(美術・文化財)

写真提供：日展、日本工芸会

陶芸



(しほ)の(なぎさつぼ)
今井政之「紫暮の渚壺」

金工



(そうがんおほろぎんかき「せき」)
中川 衛 象嵌臙銀花器「堰」

金工



(そら)(はな)
春山文典「キュービック 宙・華」

截金



(ひとよ)の(まい)Ⅱ
月岡裕二「一夜の舞Ⅱ」

竹



(あじろあみもりかご「ようこう」)
藤沼 昇 網代編盛籃「陽光」

竹



(りゅうもん)
本間秀昭「流紋-2018」

木



須田賢司
(おうち・かえでふきうるしかなめにかいだな「あふちのたな」)
棟・楓拭漆賀奈目二階棚「阿布知乃多奈」

木



(のぞ)み
前川正治「望み」

高精細レプリカ展示 イメージ

(美術・文化財)

国立劇場大劇場2階日本画ギャラリー等に、加山又造作「おぼろ」等の陶板による高精細レプリカ（大塚オーミ陶業株式会社）を特別展示予定。（2019年3月3日（日）予定「日本博」旗揚げ式より展示）

（参考）大塚オーミ陶業株式会社：2017年度「第7回ものづくり日本大賞」応用部門で内閣総理大臣賞を受賞。

「おぼろ」加山又造作
H1740×W3600 (mm)



演出：イメージ

↑
※2016年の
「伊勢志摩サミット」で
展示



「風神雷神図」建仁寺所蔵の高精細レプリカ

「風神雷神図屏風風」俵屋宗達作
H1545×W3396 (mm)



Discoverシリーズ（外国人のための体験公演）

（舞台芸術）

訪日外国人を対象に、日本の四季を題材にした歌舞伎、人形浄瑠璃文楽、能楽及び組踊などの公演を、音声ガイド・字幕表示・解説書などの多言語対応(日・英・中・韓・西・仏)により実施。実演前の見どころ解説コーナーを含み、1時間半～2時間で鑑賞できるプログラムを提供。

Discover NOH&KYOGEN公演チラシ
(2019年公演)

Discover BUNRAKU公演チラシ
(2018年公演)

Discover KABUKI
公演チラシ
(2018年公演)

May 29, 2019 (Wednesday)
19:00- (approximately 2 hours)
Commentary (in English)
Kyogen: Busu (The Delicious Poison)
Noh: Sesshoseki (The Killing Rock)

2019年5月29日(星期三)
19:00開演(予定21:00結束)
●解説 能楽之趣
●狂言 附子
●能劇 杀生石

2019년 5월 29일(수)
오후 7시 개연(오후 9시 공연 예정)
해설

UNESCO
Intangible
Cultural Heritage

Discover
NOH & KYOGEN

National Noh Theatre
国立能楽堂
Introduction to Noh & Kyogen
<http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/noh/en/>

Discover
2018 KABUKI
歌舞伎
가부키

KABUKI GUIDANCE
How to Appreciate
Kabuki in English

FRIDAY, JUNE 15 2:30PM
6:30PM

KABUKI PERFORMANCE
Experience the live performance
of Kabuki "Renjishi"

Audio-Guide
Provides multilingual commentary of
the drama and history.

Discover kabuki renjishi

Most Sophisticated Puppet Theatre Art in the World!

Discover BUNRAKU

— BUNRAKU for Beginners — June 16 Sat. 2:00 pm

NININ SAMBASO
~ A Festive Dance ~

The ABC of BUNRAKU
~ Introduction to BUNRAKU ~

EHON TAIKOKI
~ The Tycoon's Pictorial Biography ~
[Navigator]
KATSURA Kaishi (Rakugo Storyteller)

Ticket: 3,900yen / Student 1,300

Online Sale & Telephone Reservation : from Thursday
Box Office Sale : from Friday, 4 May

National Theatre Ticket Centre
◆ ONLINE (6:00am-2:00am)
http://ticket.ntj.jac.go.jp/top_e.htm
◆ TELEPHONE (10:00am-6:00pm)
0570-07-9900 (Domestic Call Only)
03-3230-3000 (IP phone)
◆ BOX OFFICE (10:00am-6:00pm)

National Bunraku Theatre (Osaka)
<http://www.ntj.jac.go.jp/english/>
Tel. 06-6212-2531
Access
1 min. walk from Exit 7 of Nippombashi Station
(Sennichimae, Sakaisuji) and Kintetsu Lines

Audio-guide (English): FREE | English / French / Spanish / Chinese / Korean synopsis: FREE
Enjoy with English subtitles above the stage

Ehon Taikoki Photo by DEGAMI Minna

Discover KUMIODORI
公演チラシ
(2018年公演)

Discover KUMIODORI 2018
"YUCHIBARE"
組舞"除雪" ぐみおどり'ユチバレー'

Saturday, November 17, 2018
Start of Performance: 14:00
14:00開演 大ホール
Large Theatre

Kumiodori Appreciation Class for Foreign Visitors
Part 1 "How to Enjoy Kumiodori"
Part 2 Kumiodori "Yuchibare"
Start of Ticket Sales: Monday, October 1, 2018

◆ Adult (20+) 14,000yen
◆ General 10,000yen
◆ High School Students & Younger 4,000yen

Reservation & Inquiries
National Theatre Ticket Center
TEL: 06-671-3250
Box Office: 06-671-3250 Telephone: 06-671-3250

2018年11月17日(土)
14:00開演 大ホール
組舞"除雪" ぐみおどり'ユチバレー'

◆ 一般 14,000円
◆ 高校生以下 4,000円
オーディオガイド 14,000円
予約・問い合わせ 06-671-3250
チケット販売 06-671-3250
電話 06-671-3250

国立能楽堂 ぐみおどり'ユチバレー'

「日本フィルム展」 「マンガ・アニメ・ゲーム・特撮」イメージ (メディア芸術)

「ピクチャレスク・ジャパン 世界が見た日本の景色(仮)」 主催：国立映画アーカイブ、英国映画協会

訪日外国人が撮影し、海外に伝えられた明治・大正期の日本の映像をまとめて紹介。



「隅田川」



「雨の京都」

「MANGA 都市 TOKYOニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮(仮)」

ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮に描かれたTOKYOをとりあげ、その自然、歴史、風土、文化を江戸時代から現代まで多様に紹介。



Illustration by: Yoh Yoshinari
(c) Crypton Future Media, INC. www.piapro.net / (c) khara / (c) Naoko Takeuchi/PNP, Toei Animation / (c) Osamu Akimoto, Atelier Beedama/SHUEISHA / (c) SOTSU, SUNRISE / (c) TOHO CO., LTD.



写真提供：国際交流基金
©Photo by Hiroyuki Sawada

日本の四季や自然をテーマとした「文芸×音楽×舞踊」イメージ

(生活文化・文芸・音楽)

国立劇場

「詩を詠い、奏で、舞う」(仮称)

日本の四季折々の自然や風俗を読み込んだ詩歌に作曲・作詞し、演奏・舞踊・朗読形式で上演する。文学と音楽の両面から豊かな作品世界を創造する。



第1部では題材には「万葉集」「新古今和歌集」

第2部では近世・近代の文豪(谷崎潤一郎・川端康成など)の作品を候補として検討中。

各時代の特色も分かりやすく理解していただけるよう構成。日本独自の表現技法が凝らされた文学の豊かな世界を、伝統的な音楽の演奏や舞踊などで鑑賞できる内容を検討中。



「日本の食（仮称）」展 イメージ

(食文化・自然)

日本列島の自然と環境の多様性によってもたらされている地域に根ざした多彩な食材について、動植物の標本やジオラマ、映像などを駆使し、多角的に紹介。いかに人々は知恵と工夫を凝らして“日本の食”を育ててきたのか、その過去・現在を理解し、未来の食を考察する機会も提供。

関連企画として、日本の弁当文化を伝える「現代日本のトップシェフによる弁当（仮）」の販売も実施予定。

多彩な“日本の食”～空間的な広がり～



“日本の食”を地域で比べる

“日本の食”の歴史



“日本の食”を科学する ～多彩な食材をもたらす日本の自然～



時空を超える日本のアートー古典×現代2020(仮称)

2020年3月～6月(この間で12～13週程度)

現在活躍中の日本を代表する現代美術家、デザイナー、建築家等の表現を、日本美術の古典というべき名作と組合せて展示し、時代を越えて継承されている造形や美意識を、自然という観点で浮き彫りにする。

日本のファッション・デザイン展(仮称)

2020年6月～8月

日本の戦後ファッションから最新動向を紹介。「自然との関わり」から着想を得た、「創造性」や「革新性」を切り口に概観。



鴻池朋子 Tomoko Konoike
皮織帳 Drop curtain of cowhide
2015
インスタレーションビュー(神奈川県民ホール)
Installation View, Kanagawa Kenmin Hall

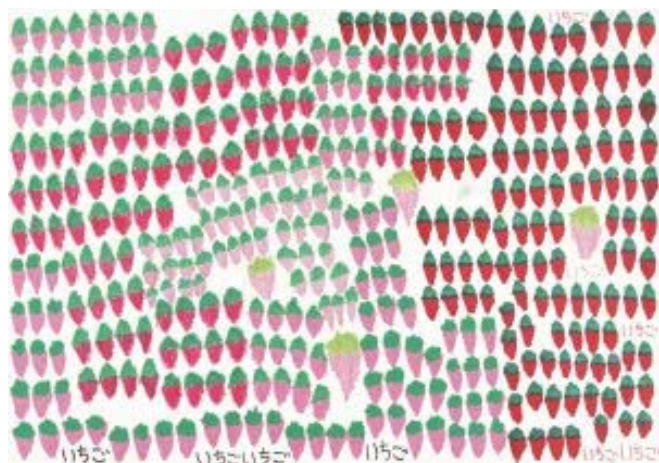
牛皮、クレヨン、水彩
cowhide, crayon, watercolor
600.0×2400.0 cm
©Tomoko Konoike



森英恵
ホステス・ガウン「菊のジャマ・ドレス」
1966年
綾絹と絹シフォンのジャンプスーツとカフタン
島根県立石見美術館 蔵

「ここから4ー障害と共生を考える5日間」展（仮称）

平成28年度のスポーツ文化ワールドフォーラム時に国立新美術館で開催し、継続している「ここから展」を継承拡大する企画。障がいを持つ人の作品展示だけでなく、手話通訳や「タッチ・エキジビション」（触れる展示）の導入、鑑賞サポーターの配置等で、障がい者の鑑賞機会の充実、さらにはその家族など普段、美術館に来場しにくい層に美術館を「ひらく」機会を目指す。



大倉史子 《いちご》

横溝さやか 《TOKYO》

参考：文化庁主催「ここから」展について
「ここから3ー障害・年齢・共生を考える5日間」
平成30年12月開催（会場はいずれも国立新美術館）



マンガ作品を「触れて」鑑賞する
「触図（しょくず）」化の試み



展示作品を解説するギャラリー
トークでの手話通訳

アイヌ文化をテーマとした企画 イメージ

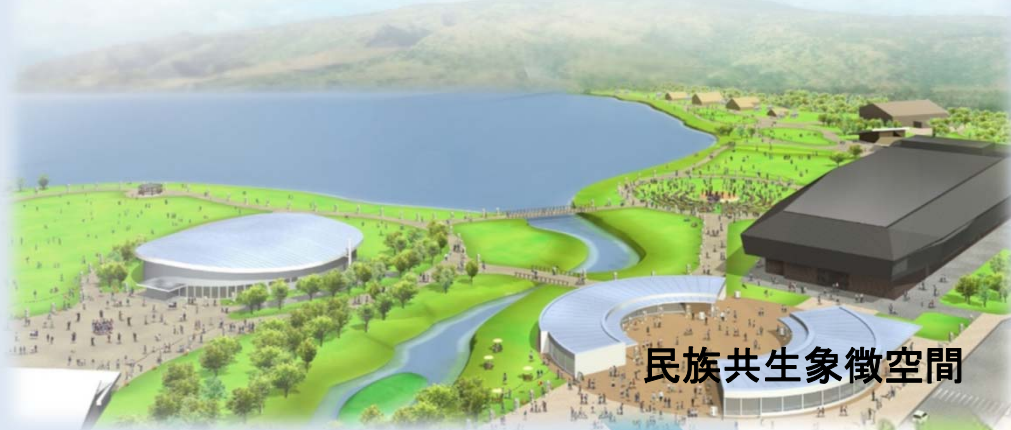
(総合型、共生社会・多文化共生)

2020年4月にアイヌ文化復興のナショナルセンターとして北海道白老町にオープンする“民族共生象徴空間”をはじめ、北海道内の各地域において、“自然とともに生きるアイヌ文化”をテーマとした各種イベントを開催し、現代に息づくアイヌ文化の魅力を国内外に発信。

白老 SHIRAOI

先住民族の文化フェスティバル

アイヌ文化の魅力を結集し、世界各国の先住民族の文化とともに、その魅力を国内外に発信



民族共生象徴空間

札幌 SAPPORO

Ainuの“食”

先住民族のスローフードの魅力を発信



平取 BIRATORI

Ainuの“工芸”

木彫、アットウシ織り等の工芸品が持つ魅力を発信



阿寒 AKAN

Ainuの“踊りと音楽”

アイヌの古式舞踊や
伝統楽器・アイヌ音楽の魅力を発信



被災地における民俗芸能 イメージ

(被災地復興)

岩手・宮城・福島沿岸部だけでも約1000件あるとされる民俗芸能と、それを伝える地域の震災復興をアピールするため、被災地以外での公演を実施。



「女川の獅子舞」①



おがつ
「雄勝の法印神楽」②



うけと
「請戸の田植踊り」③



「廻り神楽」④

①女川の獅子舞
宮城県女川町の獅子舞（「獅子振り」と呼ばれる）は、女川町内の集落ごとに伝わる芸能。正月に家々を回って悪魔を払う。震災でその多くが流されたが、震災後に支援を得て復活した。

②雄勝の法印神楽
宮城県石巻市の神楽。震災で大きな被害を受けたが、数々の復興公演を行ってきた。祭礼時には、仮設の舞台を組んで上演。アクロバティックな舞も特徴の勇壮な神楽。

③請戸の田植踊り
福島県浪江町の田植踊り。津波と原発事故により避難を余儀なくされている子どもたちを中心とした踊り。かつては祭礼に家々を回ったり浜辺で演じていた。震災後、さまざまな制約の中で熱心に活動を重ねている。

④「廻り神楽」
震災によって大きな被害を受けた岩手県宮古市の黒森神楽を追った長編ドキュメンタリー映画。

2018年

12月17日（月） 文化庁「日本博」企画委員会（第1回）

12月26日（水） 日本博総合推進会議

2019年

1月 日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議

2月 文化庁「日本博」企画委員会（第2回）

3月 3日（日） 「日本博」旗揚げ式（於：国立劇場・大劇場）

2020年

3月中旬 「日本博」オープニングセレモニー（於：東京国立博物館）

※その他の「日本博」企画についても、順次調整・追加